

現代家族のワーク・ライフ・バランスに関する調査

新潟大学教育学部 高橋桂子

少子・高齢社会が同時に進展している今日、女性も男性も、生き生きと仕事をしながら、同時に子育て・介護など家庭人としても家庭責任を遂行することが可能な生活環境を整備していく必要があります。新潟県内で働く雇用労働者たちが、自分たちの仕事生活と家庭生活のバランスの在り方など、どう感じているのでしょうか。本研究は、仕事生活と家庭生活のよりよいバランスなど、労働者の生活課題を解決する方向性を検討することを目的として、ご夫婦を対象に、就業や夫婦生活満足などを調査させていただきました。調査結果の詳細な分析につきましては改めてご報告いたしますが、暫定的に、単純集計結果を中心に調査結果の概要を報告いたします。

<組合員票についての集計結果>

I 調査の概要・基本属性

1. 調査方法

連合新潟の協力を得て、組合員とその配偶者を対象に 2008 年 5 月、アンケート調査を実施した。調査票の配布は有配偶組合員を対象に、本人票と配偶者票をセットで配布した。調査票の配布は連合新潟が行い、回収は返信用封筒(料金後納方式)にに入れて大学宛に直接投函いただく郵送回収法をとった。配布票 3000 組、回収票 579 組(回収率 19.3%)である。

2. 調査対象者の概要

夫:平均年齢 42.3 歳(SD=7.39:(SD(standard deviation)=標準偏差))、勤務先の企業規模(全体)1,754 人(SD=1559)、通勤時間を含む 1 日の労働時間は 11.89 時間(SD=1.63)、延べキャリア年数は 23.3 年(SD=7.93)。妻の就業形態別にみた場合、年収には差に有意傾向が確認される(表 1 参照)(F(2,357)=2.750、p<.1)。

妻:平均年齢 40.7 歳(SD=7.20)、企業規模 810 人(SD=1247)。業種では、正社員の妻は二次産業に 6 割、パートの妻は三次産業が 5 割。職種は、正社員の妻は専門・技術と事務にそれぞれ 3 割強、技能工が 2 割であるが、パートの妻は事務と営業・販売がそれぞれ 3 割。延べキャリア年数(F(1,210)=12.84、p<.001)、1 日の労働時間(F(1,243)=151.82、p<.001)や年収(F(1,260)=242.89、p<.001)において、表 1 に示すように女性の就業形態別に統計的に有意な差が確認された。

表 1 夫婦類型別にみた属性(平均値)

	妻正社員夫婦		妻パート夫婦		妻無職夫婦		
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
妻・延べキャリア年数(年)	19.3	8.1	14.8	8.1			***
妻・1日の労働時間(時間)	10.3	1.1	7.8	2.2			***
夫・年収(万円)	537.3	174.8	536.3	159.1	586.9	169.6	+
妻・年収(万円)	315.5	129.3	121.7	47.5			***
夫婦年収・年収(万円)	843.5	242.4	651.1	177.1	586.9	169.6	***

(注)SD=Standard Deviation:標準偏差の略である。

F1【性別】

1. 男性	2. 女性
93.2	6.8

F2【年齢】

満(平均 42.3)歳				
20代	30代	40代	50代	60代
3.7	32.3	47.2	16.4	0.3

F3【最終学歴】

1. 中学	2. 高校	3. 高専・短大	4. 専門学校	5. 4年制大学	6. 大学院
-------	-------	----------	---------	----------	--------

1.9	78.8	2.7	4.9	10.9	0.8
-----	------	-----	-----	------	-----

F4【配偶関係】

1. 既婚(事実婚含む)
100

F5【家族構成】現在のあなたの世帯

1. 夫婦のみ	2. あなた(夫婦含む)と子	3. あなたの親とあなた夫婦	4. 配偶者の親とあなた夫婦
0	51.9	1.1	0.6
5. あなたの親とあなた(夫婦を含む)と子	6. 配偶者の親とあなた(夫婦を含む)と子	7. 祖父母と親と子(あなた)	8. その他
31.8	11.0	1.7	1.9

SQ1 現在「同居している」お子さんの数、一番下のお子さんの年齢

現在、同居している子どもの数

一人	二人	三人	四人以上
31.8	51.6	15.2	1.1

一番下の子どもの年齢 2008年6月1日現在

0～5歳	6～10歳	11歳～15歳	16歳以上
31.9	23.1	22.6	22.4

SQ2 あなた(配偶者)の親の、現在の居住地

あなたの親

1. 同居	2. 同敷地内のはなれ・別棟・隣	3. 片道 30 分未満	4. 片道 30 分～1 時間未満
38.9	3.6	33.7	13.1
5. 片道 1 時間～2 時間以内	6. 片道 2 時間～3 時間以内	7. 片道 3 時間以上	
4.3	2.1	4.3	

配偶者(パートナー)の親

1. 同居	2. 同敷地内のはなれ・別棟・隣	3. 片道 30 分未満	4. 片道 30 分～1 時間未満
13.2	1.9	46.4	19.7
5. 片道 1 時間～2 時間以内	6. 片道 2 時間～3 時間以内	7. 片道 3 時間以上	
8.5	2.2	8.2	

II 仕事生活に関する実態・意識

問 1.【雇用形態】

1. 正社員
100

問 2.【業種】

1. 製造業	2. 非製造業	3. 公務	4. その他
63.3	20.9	4.9	10.9

問 3.【全規模】

1. 29 人以下	2. 30～99 人	3. 100 人～299 人	4. 300 人～999 人	5. 1000 人～2999 人	6. 3000 人以上
1.9	6.0	21.6	16.7	26.3	27.4

問 4.【仕事の種類】

1. 専門・技術的	2. 管理的	3. 事務的	4. 営業・販売・サービス
25.5	11.1	18.5	5.7
5. 保安・警備	6. 運輸	7. 技能工・生産現場	8. その他
	7.9	30.2	1.1

問 5.【勤務形態】

1. 通常勤務	2. フレックスタイム勤務	3. 短時間勤務	4. 事業場外のみなし勤務
---------	---------------	----------	---------------

65.5	9.8	0.3	
5. 専門業務型裁量労働	6. 企画業務型裁量労働	7. 交代・変則勤務	8.その他
0.3	0.3	23.6	0.3

問 6.【役職】

1. 一般	2. グループリーダー	3. 主任・係長クラス	4. 課長クラス以上
54.8	9.0	34.6	1.6

問 7.【勤続年数】勤続年数(2008 年 6 月 1 日現在。育児休業期間を含む)

現在お勤めの会社

(平均20.9)年目

延べの勤続年数

延べ(平均 23.3)年目

問 8.【出勤・帰宅時間】平均的な 1 日の出勤・帰宅時間を「24 時間表記」

出勤時間 (平均 7)時(48)分頃

帰宅時間 (平均 19)時(6)分頃

問 9.【残業時間】先月の残業時間(サービス残業も含む)。

残業時間 約(平均20.8)時間

問 10.【年間収入】あなたご本人の 2007 年 1～12 月の税込み年間収入。

1. 103万円以下	2. 103万円超～130万円	3. 130～200万円	4. 200～300万円	5. 300～400万円	6. 400～500万円
0.3		1.1	5.0	16.0	20.7
7. 500～600万円	8. 600～700万円	9. 700～800万円	10. 800万円～1,000万円	11. 1,000～1,500万円	12. 1,500万円以上
18.8	20.7	12.4	4.1	0.8	

問 11.【仕事満足度】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	勤続年数に応じて、判断・企画力や責任ある仕事が増えた	24.2	50.3	21.5	4.1
2	職場は、教育・研修が充実している	10.6	40.8	41.6	7.1
3	職場に、「あの人のようになりたい」と思える同僚や先輩がいる	9.5	38.4	39.8	12.3
4	職場は、トラブルの対処方法など、気軽に相談することができる	12.0	55.5	25.4	7.1
5	職場全体の仕事の進め方などについて、意見をいいにくい雰囲気がある	8.4	56.7	29.2	5.7
6	今の職場に、私の居場所はない	42.1	46.4	9.8	1.6
7	上司は、私の業務内容や負担を理解している	11.7	53.4	27.5	7.4
8	自分の能力・業績に対する相対評価は妥当である	6.0	53.6	33.3	7.1
9	職場で、自分は重要な人材だと見なされている	6.5	51.5	38.1	3.8
10	自分の賃金や一時金は、近年の自分の仕事の評価・業績に見合っている	5.4	46.6	38.1	9.8
11	仕事人間といわれることがある	2.7	20.7	52.3	24.3
12	仕事のためなら私生活が犠牲になっても仕方がない	1.9	20.7	41.8	35.6
13	私がいないと職場は立ちゆかない	2.4	22.0	51.6	23.9
14	職場以外の知り合いは、多くない	3.0	26.2	50.0	20.8
15	働けなくなったら寂しい	20.9	41.8	28.8	8.4
16	今の仕事に、充実感を感じない	10.6	51.0	30.8	7.6
17	仕事の手順や量を自分で決めることができる	14.4	50.1	27.8	7.6
18	自分に与えられた仕事量や業務目標は妥当である	5.2	57.6	32.9	4.3
19	会社は、組織として優れた理念を追求している	14.4	38.4	36.0	11.2
20	私は、会社の一員として仕事をすることに誇りを持っている	10.4	51.0	32.4	6.3
21	自分と会社との考え方や方向性は近い	3.6	38.3	47.0	11.2

22	仕事を通じて成長していると感じることができる	9.0	52.2	32.8	6.0
23	今の仕事は、私の能力を発揮することができる	8.5	46.7	39.1	5.7
24	自分は、生き生きと仕事に取り組んでいる	7.9	37.5	47.3	7.3
25	難しい仕事に積極的にチャレンジしている	7.1	36.7	51.1	5.2
26	この仕事に取り組んでいる自分が好きだ	7.3	37.8	45.7	9.2
27	仕事そのものが楽しい	4.9	35.1	47.6	12.5

問 12.【職場環境】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	定時に退社しづらいなど「つきあい残業」的なものがある	6.5	23.4	45.7	24.5
2	予定外の仕事を突然、退社間際に指示されることがよくある	7.1	28.0	50.5	14.4
3	有給休暇をとりにくい雰囲気がある	12.8	22.1	43.9	21.3
4	上司から休暇取得をすすめられる環境にある	6.0	20.2	42.0	31.9
5	休暇取得中の同僚の仕事を、分担しようとする雰囲気がある	8.4	49.0	33.0	9.5
6	子育てしながら働き続けやすい	9.9	43.8	34.5	11.8
7	男性が育児休業をとることに對して支援する雰囲気がある	3.0	17.7	49.2	30.2
8	女性も男性同様、会議に出席したり出張する機会がある	13.1	37.7	32.5	16.7
9	女性と男性の昇進・昇格に、それほど差はない	7.7	30.3	47.5	14.5

問 13.【ファミフレ政策】

		導入されている			導入されていない	知らない
		取れる	取れるが、取りにくい	取れない		
1	育児休暇	50.0	33.4	6.0	3.3	6.8
2	配偶者出産休暇	56.3	19.3	3.3	9.8	10.6
3	時間単位の有給休暇	30.2	9.8	13.3	42.1	4.3
4	フレックスタイム	20.4	6.5	10.9	55.2	6.5
5	在宅勤務	1.9	3.8	11.1	74.5	8.4

問 14.【仕事意識】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	私はふだん、短い時間で効率よく仕事を進めることを意識している	24.0	53.3	21.3	1.4
2	私は、現在の仕事にやりがい感を感じている	7.9	45.9	38.9	7.3
3	全体的にみて、私は、現在の自分の仕事に満足している	6.3	50.3	35.3	8.2

Ⅲ 仕事生活と家庭生活のバランス(ワーク・ライフ・バランス)

問 15.【仕事と家庭生活】

		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	全くなかった
1	仕事のストレスのために、家庭でイライラするようになった	8.7	46.7	37.8	6.8
2	家庭で受ける愛情や尊敬のおかげで、仕事の時にも自信がもてた	11.1	50.0	32.9	6.0
3	仕事と家事とで、自分の時間が持てなかった	15.2	37.2	41.8	5.7
4	仕事上の技術が、家庭ですることの役に立った	4.3	30.7	42.1	22.8
5	家庭でのストレスのために、仕事中にイライラするようになった	3.3	26.9	53.8	16.0
6	仕事をしているおかげで、家族にとっても魅力的な存在になれた	4.1	26.6	59.0	10.3
7	家庭での責任のために、仕事に向けられる力が減ってしまった	0.8	16.6	67.4	15.2

8	仕事のために、家族との計画や約束を変更しなければならなかった	6.8	49.7	35.3	8.2
9	家庭生活によってリラックスでき、翌日も仕事に励もうという気持ちになった	10.1	53.3	32.1	4.6
10	仕事のために、家庭のことに向けられる力が減ってしまった	7.6	38.9	46.7	6.8
11	家族と話すことが、仕事上の問題解決に役に立った	1.1	28.8	56.8	13.3
12	家事のために、仕事でやりたいと思うことがやれなかった	0.5	13.9	61.7	23.9
13	仕事で疲れ過ぎてしまい、家庭での必要な心配りができなかった	13.6	47.3	35.3	3.8
14	家事のために、その日の仕事の仕上げ・残業など、仕事上の責任が果たせなかった	0.8	14.4	61.1	23.6
15	仕事での経験が、家庭での問題解決に役に立った	2.2	22.3	56.5	19.0

問 16.【仕事と家族】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	家族は、私が仕事に対してもっている情熱を理解してくれている	13.9	55.0	27.0	4.1
2	予定外の雑用を突然、家族から頼まれることがある	5.2	46.7	45.1	3.0
3	私がいないと家庭は立ちゆかない	22.0	40.8	31.3	6.0
4	家族のためなら仕事が犠牲になっても仕方がない	13.3	50.8	32.1	3.8
5	私のキャリアの方が、配偶者のキャリアより重要だ	10.4	29.4	45.8	14.4

問 17.【家族】

		とても満足	やや満足	あまり満足していない	全く満足していない	非該当
1	育児や子育てに対する配偶者の取り組み方	37.0	50.3	7.9	2.7	1.6
2	家事に対する、配偶者の取り組み方	32.1	51.1	12.8	3.0	0.8
3	家計の分配や管理・運営	23.1	51.6	21.2	3.0	0.8
4	あなたの親に対する、配偶者の接し方	25.0	47.6	18.8	4.3	4.3

問 18.【情緒的サポート】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	配偶者（パートナー）は、私のグチを聞いてくれる	22.3	51.4	21.5	4.9
2	配偶者（パートナー）は、私にアドバイスをしてくれる	15.5	44.3	35.1	5.2
3	配偶者（パートナー）は、私の能力・努力を高く評価してくれる	15.5	50.0	29.9	4.6
4	私たちは、申し分のない結婚生活を送っている	19.6	53.4	21.0	6.0
5	私と配偶者（パートナー）の関係は、とても安定している	22.8	57.3	16.0	3.8
6	私たち夫婦の絆は強い	23.6	54.6	17.1	4.6
7	配偶者（パートナー）がいることで幸せだと思う	39.5	49.0	7.6	3.8
8	私たちは、幸せな夫婦関係にあると思う	28.5	55.4	10.6	5.4
9	私と配偶者（パートナー）は一心同体だと思う	23.7	44.4	24.0	7.9

問 19.【満足度】

1. 仕事生活の満足度 (平均 62.9) 点
2. 夫婦関係の満足度 (平均 72.8) 点
3. 生活全般の満足度 (平均 70.2) 点
4. 仕事生活と家庭生活のバランス (平均 64.7) 点

IV 教育・日常生活・職業に関連した意識

問 20.【教育意識】

		とても思 う	やや思う	あまり思 わない	全く思わ ない
1	学歴は、本人の実力によってほぼ決まる	13.3	53.0	26.4	7.3
2	学歴は、親の収入や資産などの経済的な状況によってほぼ決まる	10.6	49.9	33.8	5.7
3	子どもには、できるだけ高い学歴をつけさせることが重要だ	11.1	48.1	36.1	4.6
4	高い学歴を得れば、収入面で恵まれる	11.4	48.9	35.1	4.6
5	学歴は、親の教育方針によってほぼ決まる	8.4	48.8	38.7	4.1
6	同じ大卒でも、どの大学を出るかによって人生が大きく左右される	20.4	48.4	27.2	4.1

問 21.【相談相手】

		配偶者	親	兄弟姉 妹・親 戚	子ども	友人	職場の 同僚	近所の 人
1	心配事や悩み事の相談にのってもらう	66.2	4.5	2.0	1.1	14.5	11.5	0.3
2	急いでお金(30 万円程度)を借りなければならないとき助けてもらう	51.9	37.3	5.5	1.1	2.5	1.7	
3	あなたや家族の誰かが病気や事故で、どうしても人手が必要なとき	46.0	33.1	16.5	1.7	1.4	0.8	0.6
4	何となくおしゃべりをしたり雑談につきあってもらう	44.2	2.2	1.9	4.7	25.0	21.2	0.8
5	余暇や休日と一緒に楽しむ	60.3	0.3	0.6	26.8	10.4	1.7	

問 22.【意識】

SQ1 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば反対	5. 反対
5.4	26.7	42.2	17.4	8.2

SQ2 「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきである」

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば反対	5. 反対
21.8	36.2	30.0	7.6	4.4

SQ3 「家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ」

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば反対	5. 反対
11.7	43.2	31.8	7.9	5.4

問 23.【これからの職業生活】

1. 今の会社経営のトップになりたい	2. 今の会社で管理職として働きたい	3. 今の会社で専門や技能を活かして働きたい	4. 特に希望はないが、今の会社で働き続けたい	5. 機会があれば転職したい
0.5	7.7	22.5	39.6	13.2
6. 将来は会社を起こしたい(家業を継ぐ場合も含む)	7. 子育て・介護等で退社後、再就職する	8. 子育て・介護等で退社後、家庭にはいる	9 特に考えていない	10. その他
2.7	0.3	0.8	11.3	1.4

<配偶者票についての集計結果>

I 属性

F1【性別】					
1. 男性			2. 女性		
6.8			93.2		
F2【年齢】					
満(平均 40.9)歳					
20代		30代		40代	
4.9		38.9		43.6	
50代				12.6	
F3【学歴】					
1. 中学	2. 高校	3. 高専・短大	4. 専門学校	5. 4年制大学	6. 大学院
0.6	65.7	11.9	18.0	3.9	

II 仕事生活に関する実態・意識

問 1.【雇用形態】		
1. 正社員	2.3.4. 臨時社員・パート・派遣社員	7. その他
39.9	32.8	27.3

問 2.【業種】			
1. 製造業	2. 非製造業	3. 公務	4. その他
29.4	36.6	8.7	25.3

問 3.【全規模】					
1.29 人以下	2.30～99 人	3.100 人～299 人	4.300 人～999 人	5. 1000 人～2999 人	6. 3000 人以上
31.3	19.8	12.6	14.5	11.5	10.3

問 4.【仕事の種類】			
1. 専門・技術的	2. 管理的	3. 事務的	4. 営業・販売・サービス
25.3	2.3	29.9	16.1
5. 保安・警備	6. 運輸	7. 技能工・生産現場	8. その他
0.8	1.1	14.6	10.0

問 5.【勤務形態】			
1. 通常勤務	2. フレックスタイム勤務	3. 短時間勤務	4. 事業場外のみなし勤務
59.5	1.5	24.2	0.4
5. 専門業務型裁量労働	6. 企画業務型裁量労働	7. 交代・変則勤務	8.その他
	0.4	11.7	2.3

問 6.【役職】			
1. 一般	2. グループリーダー	3. 主任・係長クラス	4. 課長クラス以上
83.8	6.0	6.8	3.4

問 7.【勤続年数】			
現在お勤めの会社		(平均10.4)年目	
延べの勤続年数		延べ(平均 17.5)年目	

問 8.【出勤・帰宅時間】			
出勤時間		(8)時(16)分頃	
帰宅時間		(17)時(5)分頃	

問 9.【残業時間】		約(平均 8.1)時間
-------------------	--	---------------

問 10.【年間収入】あなたご本人の 2007 年 1～12 月の税込み年間収入。					
1. 103万円以下	2. ～130万円未満	3. ～200万円	4. ～300万円	5. ～400万円	6. ～500万円
27.0	8.4	18.3	16.0	12.5	10.6

7. ～600万円	8. ～700万円	9. ～800万円	10.～1,000万円	11.～1,500万円
3.4	2.3	0.8	0.4	0.4

問 11.【仕事満足度】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	勤続年数に応じて、判断・企画力や責任ある仕事が増えた	13.6	37.9	28.8	19.7
2	職場は、教育・研修が充実している	8.3	32.1	37.7	21.9
3	職場に、「あの人のようになりたい」と思える同僚や先輩がいる	8.0	31.8	38.6	21.6
4	職場は、トラブルの対処方法など、気軽に相談することができる	12.8	43.0	33.2	10.9
5	職場全体の仕事の進め方などについて、意見をいいにくい雰囲気がある	11.4	47.0	31.8	9.8
6	今の職場に、私の居場所はない	42.1	48.5	7.9	1.5
7	上司は、私の業務内容や負担を理解している	14.8	47.3	28.4	9.5
8	自分の能力・業績に対する相対評価は妥当である	6.4	49.1	34.3	10.2
9	職場で、自分は重要な人材だと見なされている	7.9	50.2	35.5	6.4
10	自分の賃金や一時金は、近年の自分の仕事の評価・業績に見合っている	6.0	38.5	40.4	15.1
11	仕事人間といわれることがある	3.0	15.5	42.6	38.9
12	仕事のためなら私生活が犠牲になっても仕方がない	1.1	13.5	37.2	48.1
13	私がいないと職場は立ちゆかない	3.0	19.6	43.4	34.0
14	職場以外の知合いは、多くない	1.9	15.5	55.5	27.2
15	働けなくなったら寂しい	18.0	44.4	25.2	12.4
16	今の仕事に、充実感を感じない	11.3	57.7	26.4	4.5
17	仕事の手順や量を自分で決めることができる	14.4	37.9	32.2	15.5
18	自分に与えられた仕事量や業務目標は妥当である	6.0	51.7	35.5	6.8
19	会社は、組織として優れた理念を追求している	9.0	36.1	39.1	15.8
20	私は、会社の一員として仕事をすることに誇りを持っている	9.8	45.3	39.2	5.7
21	自分と会社との考え方や方向性は近い	2.3	34.2	48.1	15.4
22	仕事を通じて成長していると感じることができる	7.5	48.3	35.8	8.3
23	今の仕事は、私の能力を発揮することができる	7.1	49.2	35.3	8.3
24	自分は、生き生きと仕事に取り組んでいる	7.5	46.6	38.7	7.1
25	難しい仕事に積極的にチャレンジしている	4.9	37.2	47.7	10.2
26	この仕事に取り組んでいる自分が好きだ	6.8	47.2	37.4	8.7
27	仕事そのものが楽しい	8.6	42.9	40.2	8.3

問 12.【職場環境】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	定時に退社しづらいなど「つきあい残業」的なものがある	7.9	18.0	39.8	34.2
2	予定外の仕事を突然、退社間際に指示されることがよくある	7.1	24.4	39.5	28.9
3	有給休暇をとりにくい雰囲気がある	20.8	24.2	32.8	22.3
4	上司から休暇取得をすすめられる環境にある	2.3	13.3	35.7	48.7
5	休暇取得中の同僚の仕事を、分担しようとする雰囲気がある	13.7	42.2	28.1	16.0
6	子育てしながら働き続けやすい	14.4	41.7	28.4	15.5
7	男性が育児休業をとることに對して支援する雰囲気がある	3.1	8.9	43.2	44.8
8	女性も男性同様、会議に出席したり出張する機会がある	15.3	34.5	26.1	24.1
9	女性と男性の昇進・昇格に、それほど差はない	8.1	26.9	34.6	30.4

問 13.【ファミフレ政策】

		導入されている			導入されていない	知らない
		取れる	取れるが、取りにくい	取れない		
1	育児休暇	49.3	19.2	8.4	23.4	
2	配偶者出産休暇	36.0	20.7	11.0	32.3	
3	時間単位の有給休暇	27.2	10.9	13.9	48.0	
4	フレックスタイム	5.8	4.2	14.7	75.3	
5	在宅勤務	1.0	2.0	9.0	88.1	

問 14.【仕事意識】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	私はふだん、短い時間で効率よく仕事を進めることを意識している	28.0	56.4	12.7	3.0
2	私は、現在の仕事にやりがい感を感じている	8.1	46.8	39.6	5.5
3	全体的にみて、私は、現在の自分の仕事に満足している	7.6	49.8	36.7	5.9

Ⅲ 仕事生活と家庭生活のバランス(ワーク・ライフ・バランス)

問 15.【仕事と家庭生活】

		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	全くなかった
1	仕事のストレスのために、家庭でイライラするようになった	6.3	51.1	32.9	9.7
2	家庭で受ける愛情や尊敬のおかげで、仕事の時にも自信がもてた	7.2	51.1	37.1	4.6
3	仕事と家事とで、自分の時間が持てなかった	12.2	53.6	26.6	7.6
4	仕事上の技術が、家庭ですることの役に立った	5.5	33.9	38.6	21.6
5	家庭でのストレスのために、工作中にイライラするようになった	2.1	23.2	53.2	21.5
6	仕事をしているのおかげで、家族にとっても魅力的な存在になった	1.7	34.3	53.4	10.6
7	家庭での責任のために、仕事に向けられる力が減ってしまった	1.7	21.2	60.6	16.5
8	仕事のために、家族との計画や約束を変更しなければならなかった	4.6	38.4	39.2	17.7
9	家庭生活によってリラックスでき、翌日も仕事に励もうという気持ちになった	8.1	50.0	36.0	5.9
10	仕事のために、家庭のことに向けられる力が減ってしまった	5.5	43.0	40.5	11.0
11	家族と話すことが、仕事上の問題解決に役に立った	5.9	37.3	45.3	11.4
12	家事のために、仕事でやりたいと思うことがやれなかった	3.0	18.7	55.3	23.0
13	仕事で疲れ過ぎてしまい、家庭での必要な心配りができなかった	9.7	58.9	28.0	3.4
14	家事のために、その日の仕事の仕上げ・残業など、仕事上の責任が果たせなかった	2.5	20.3	51.7	25.4
15	仕事での経験が、家庭での問題解決に役に立った	1.3	22.8	56.5	19.4

問 16.【仕事と家族】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	家族は、私が仕事に対してもっている情熱を理解してくれている	15.2	51.9	28.7	4.2
2	予定外の雑用を突然、家族から頼まれることがある	8.9	39.0	47.0	5.1
3	私がいないと家庭は立ちゆかない	27.1	40.3	28.4	4.2
4	家族のためなら仕事が犠牲になっても仕方がない	18.6	48.5	28.3	4.6
5	私のキャリアの方が、配偶者のキャリアより重要だ	2.5	11.8	41.8	43.9

問 17.【家族】

		とても満足	やや満足	あまり満足していない	全く満足していない	非該当
1	育児や子育てに対する配偶者の取り組み方	19.6	45.9	20.9	3.5	1.1
2	家事に対する、配偶者の取り組み方	22.0	46.5	14.7	4.3	3.8
3	家計の分配や管理・運営	14.1	44.0	27.2	5.7	0.3
4	あなたの親に対する、配偶者の接し方	16.0	46.5	23.4	4.6	0.3

問 18.【情緒的サポート】

		とても該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない
1	配偶者(パートナー)は、私のグチを聞いてくれる	27.0	51.9	17.8	3.3
2	配偶者(パートナー)は、私にアドバイスをしてくれる	22.0	47.3	26.2	4.5
3	配偶者(パートナー)は、私の能力・努力を高く評価してくれる	17.3	47.3	29.8	5.4
4	私たちは、申し分のない結婚生活を送っている	20.0	50.7	23.0	6.3
5	私と配偶者(パートナー)の関係は、とても安定している	26.8	55.4	13.4	4.5
6	私たち夫婦の絆は強い	25.6	54.2	15.5	4.8
7	配偶者(パートナー)がいることで幸せだと思う	36.8	50.1	10.4	2.7
8	私たちは、幸せな夫婦関係にあると思う	30.4	51.5	14.0	4.2
9	私と配偶者(パートナー)は一心同体だと思う	16.6	47.8	27.3	8.3

問 19.【満足度】

1. 仕事生活の満足度 (平均 63.0)点
2. 夫婦関係の満足度 (平均 72.7)点
3. 生活全般の満足度 (平均 72.2)点
4. 仕事生活と家庭生活のバランス (平均 69.1)点

IV 教育・日常生活・職業に関連した意識

問 20.【教育意識】

		とても思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない
1	学歴は、本人の実力によってほぼ決まる	20.4	51.2	26.3	2.1
2	学歴は、親の収入や資産などの経済的な状況によってほぼ決まる	11.6	49.3	33.8	5.3
3	子どもには、できるだけ高い学歴をつけさせることが重要だ	13.3	45.9	38.8	2.1
4	高い学歴を得れば、収入面で恵まれる	14.6	50.1	32.2	3.0
5	学歴は、親の教育方針によってほぼ決まる	12.7	44.7	37.3	5.3
6	同じ大卒でも、どの大学を出るかによって人生が大きく左右される	17.5	51.2	27.2	4.1

問 21.【相談相手】

		配偶者	親	兄弟姉妹・親戚	子ども	友人	職場同僚	近所の人
1	心配事や悩み事の相談にのってもらう	66.1	7.0	5.5	0.6	17.0	3.9	
2	急いでお金(30万円程度)を借りなければならないとき助けてもらう	47.9	45.2	4.8	0.9	1.2		

3	あなたや家族の誰かが病気や事故で、どうしても人手が必要なとき	42.0	38.7	14.7	1.8	2.1		0.6
4	何となくおしゃべりをしたり雑談につきあってもらう	28.0	4.8	7.5	5.4	47.0	6.0	1.2
5	余暇や休日を一緒に楽しむ	55.6	0.6	3.6	31.4	8.8		

問 22.【意識】。

SQ1 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば反対	5. 反対
4.7	20.7	47.9	15.2	11.6

SQ2 「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきである」

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば反対	5. 反対
22.0	32.0	32.5	8.8	4.7

SQ3 「家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ」

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば反対	5. 反対
12.4	36.6	37.7	7.4	5.8

問 23.【これからの職業生活】

1. 今の会社経営のトップになりたい	2. 今の会社で管理職として働きたい	3. 今の会社で専門や技能を活かして働きたい	4. 特に希望はないが、今の会社で働き続けたい	5. 機会があれば転職したい
0.4	0.4	11.0	33.0	19.4
6. 将来は会社を起こしたい(家業を継ぐ場合も含む)	7. 子育て・介護等で退社後、再就職する	8. 子育て・介護等で退社後、家庭にはいる	9. 特に考えていない	10. その他
2.2	3.7	6.2	22.0	1.8

自由回答より

組合員

NO	ご意見
1	ここ数年で非正規雇用者が増加し、行き先不透明の状況に落し入れられている。一方で、正規雇用者は負担増、業務増で慢性的な過労の状況にある。さらには、大企業を中心に経営者側のみが収入増となっている。「構造改革」によって生じたこうした「構造」を「改革」しなければ、ワーク・ライフ・バランス、少子化対策、福祉、教育等は好転しないのではないかと考えている。
2	問22のSQ2について：幼児期における母親の役割りは重要であると感じます。しかし、現実的には経済的・社会的にも難しいものと考えます。現在小6・小2の女の子を育てていますが、幼児期（3～4歳）位までは母親にべったりとしていましたが、今では母親よりも私の仲が良いと思います。男性の育児参加については積極的に関わるべきであると感じます。
3	私の小さい頃、両親とも共働きでした。働きながら育児をする女性には、夫の助けが必要であると子供ながらに感じました。今、自分が親となり、その大切さを強く感じております。
4	核家族はどうしても周りの人達と接する機会が少なくなるので、考え方も偏りがちになるような感じを受けます。地域の人々や両親等と接する機会を増やし、コミュニケーションを大切にしていきたいと考えています。子供には、親の一方的な考え方、教育方針をおしつけずに自分の意見もいえるような人間に育てていきたいと考えております。
5	会社組織が大きすぎて、現場の考えがなかなか上に伝わらない。
6	給与が上がらないからヤルキがない。成果主義の割に年功序列でやっている。仕事をしない人間が給与が上がるのでやってられない。
7	仕事と家庭のバランスは非常に難しいと思います。昔は「仕事だけ」おやじが多く、父親は仕事だけしていればよかったような時代もあったと思います。しかし、今はむしろ、「家庭第一」が行きすぎているように感じるがあります。家庭が大事というよりは、「自分」が大事なのかも知れません。自己中心的な人が増えている気がします。個人的には、仕事・職場あつての家庭であり、自分の生活は仕事することにより成り立っているものだと思っています。現代は、個人を尊重しすぎです。
8	中小企業の宿命だと思うが、間接部分（生産管理）での仕事はギリギリの人数で仕事を行っている為、休みを取りたくても取りづらい。まれに休んでしまうと次の日は仕事が増える山積に・・・
9	少子化の一番の原因は結婚しない又は晩婚のためです。なぜ結婚しないのか、どうすれば結婚できるのか。子育てしやすい社会の前に結婚を進めなければならない。各年齢や地域でどれだけ未婚の人がいるか調査すべきである。
10	時間外労働が増えている。それに対し、給与等の評価が適切に反映されない。社会保険・福祉等について将来が不安である。
11	・年収が上がれば上がるほど、保育園代も上がるので、全く生活が楽にならない。・今の保育園代では、配偶者の月収とほぼ差がないので、働かないで、家で子育てをしても、収支が変わらない。・どちらかといえば、子育てや、家事を手伝う方が会社は全く理解してくれない。・保育園代は、年収ではなく、基本給で算出するべきだと思う。（残業などがなくなれば、今の保育園代は払えない。）
12	共働きで育児を行うのは大変難しい。（子どもが具合の悪い時など会社を休めない）
13	ワークライフバランスはうまくとれるには金銭的な余裕がなければ不可能に近い気がする。子育て、介護を続けながら働ける世の中にはなってきたが生活していけるとは限らない。子育て、介護支援という点ではいろいろ改善されてきているが、税金だの値上げだのと収入より支出が多くなっているのは少子化だと国が言っているのはおかしい。心の余裕も大事だが、所詮、生きていくには金が必要。いやな世の中だし、子どもたちの将来が心配だ。
14	夫婦共働きで、子どもにかけてあげる時間がなく、今、悩んでいます。残業はあるし土曜、日曜、祝日の出勤も交代であり、家庭の事が疎かになっている。
15	中越地震以後、収入が激減。生活がとても苦しいのでワークライフバランスについて考える余裕は全くない。入社10年目にしてやっと給料が初任給より多くなった。
16	希望や夢の持てる職場であってほしい。
17	現状、会社の経営が苦しいことで、残業カット（サービス残業あり）や手当ての減があり生活面で厳しい。また、勤務評定（個人の成績、貢献度）が曖昧で正しい評価を受けていない。感情評価ばかり・・・役員や幹部の人数が多過ぎる。反面、人員整理（高齢者の肩たたきが始まった）将来に不安が山積み（首切り、倒産危機、仕事が無い）「組合自体が弱くなっている！」。労働者の声を聞いてくれるところがない！！
18	この先々の事を考えていくと、会社に対して不安な事が多すぎる。例えば、上司の発言がその日によって変わってしまう事だったり、営業の事で職員に対しての気遣いを感じられない。常に見下す様な所があり、自分が気に入っている人とそうでない人に対する対応や対お客様に対しても、お客様を選んでお金のある人にはヘコヘコして、そうでない人にはそっけない対応をする事もある。全ての面でコーチングの出来ない上司の下で仕事を行うのは個人的にはつらい。しかし私が上司を選ぶことは出来ない。そのうち転勤（どちらかが）すると思うので、なるべく辛抱していこうと思います。

NO	ご意見
19	国は我々サラリーマンから税金をたくさん取りすぎる。収入がぜんぜん上がらず、暮らしが楽にならない！
20	男性も女性も、生き生きして働きながら、子育て・介護が出来る環境があればいいと思います。しかしながら、近年、給与の低迷や高齢者の医療費の負担額増など、様々な社会環境の変化により、生き生きしながら、生活して生けない場面が増えています。このような、調査機会を是非、活かして我々組合員の生の叫びを政府や官僚に訴えて下さい。
21	不規則、勤務でない、良い仕事があれば変わりたい。でも年齢が…。
22	子供がいるといないでは「夫婦」のあり方が全く違うと思います。ウチは居ないので、一体感がイマイチ…。私の性格によるところが大きいですが、プライベートを尊重してくれない職場ではモチベーションも高くできないと思います。仕事＞＞超えられないカベ＞＞家族※収入がなければ、生活もなりたたないので微妙ですな。
23	格差社会をなくしてほしい。
24	組合の執行部をしているので、ちょっと大変な点がある(両立しない時がある)
25	現在、夫の両親と同居しています。夫は月～金まで出張しています。(結婚する前より出張生活をしています)。夫と過す時間が少ないため、自分の身体的・精神的に悩み事があった時に相談できる人が近くにいません。これから出産、育児等家庭でやる事が増えた場合に、どうやってバランスをとっていけばいいか不安です。
26	私はマネー的には、貧しくとも、心豊かな人生を歩もうと思っています。これまで、お世話になった社会に貢献出来ればいいなと思っています。
27	共働きの家庭が増えている中、育児の支援や保育所などでの預かり条件が充実していないと思う。安心して子供を預けて働ける環境であれば、これから結婚する人や若い人の社会進出も増えると思う。家庭でも負担やストレスを軽減する為にも、子育て介護の支援をもっと充実させて欲しい。
28	今の国の方策はおかしいと思う。弱者が働いても生活が一向に改善されない。今の方策で政治が続くと生活弱者が増え、世の中のこれからの子供たちは社会人になった時どうなるのか不安でならない。今の大人は自分が今良ければ良いと考えている人が多すぎると思う。
29	ワークライフバランスは「男性」の意識改革をしないかぎり、どのような制度を造っても無意味だと思う。
30	賃金低下、物価上昇、退職金減、年金ダメ こんな状況で働く気力があるわけない！全て政治が悪い。アンケート取っても改善されない。
31	退職60歳にして63歳まで今の会社で自分のスキルを生かすべく、半日だけ働く。午後は、家事や趣味の時間に専念したい。これが、今の私の理想とする将来像です。・つまり、年金が出るまで働かないと生活に困る。急に社会からはずれて家庭にはいるのもイヤ。・今から何か資格を取って、60歳から別の道で自分を生かしたい気もある(実益もともなう仕事)をしたい気持ち。
32	プラス要因とマイナス要因の違いを表現しにくい気がします。
33	・家庭内の事情とか、自身の体力とか、状況により考え方も変化させなくてはならないでしょう。変化に対応出来る、柔らかな頭でいたいと思っています。
34	仕事と子育ての両立は本当に大変でなりません。母親は、体調を崩す事が本当に出きない。子供のために休む事が出来ても、自分のためには難しいです。
35	パブル崩壊以降、経営者のモラルは地に落ちてしまった。有給、残業等、労基法に触れそうな従業員の状況は、最悪になってしまいました。追い打ちをかけるように規制緩和により、更に悪くなっているような気がします。このような事態はグローバル化により、世界的に貧富の拡大をまねき、貧困の固定化につながらなければよいのに…と思っています。
36	仕事量が多く、残業時間も制限されてこまる。

配偶者

NO	ご意見
1	・未来が見えない、先への不安、年金など、天引きされているが、本当に、その分の見返りはあるのか。・子供達20代後半とか、20代前半など、その子供たちの子育てはどうなるのか。働いているのに、お金がない、一ヶ月の支払いをすると手元に残る金額は少ないという現実の中でどうやって家庭というものを支えていくのか。親のみならず、不安が一杯です。毎日を一生懸命生きてます。死ぬわけには生きません。どうしたら、明るい光が見えるのでしょうか。教えてください。
2	生き生きと働きながら、子育て・介護ができる環境を整備していくことの基礎資料になるアンケート⇒そんな生活環境になると良いと思います。しかし、今現在は難しいと感じています。やはり、子育てや介護の時は人の手が必要です。働きながらは大変です。何をしてもお金もかかります。今は、正社員になることも難しい時代です。
3	現在、夫婦共働きです。末子が1歳5ヶ月のため、会社に申し出て時間短縮しています。(9時～16時まで)。この制度があって助かっていますが、お金の面を思うと時間短縮も考えるところです。子が3人にいて、正社員で働いている時は、帰宅時間が残業などすると7～8時の帰宅で、これから家事となると毎日疲れます。家計の心配がなければ家庭に入りたいです。夫は家のことをよく手伝ってくれます。
4	子供を育てながらの職探しは、なかなか希望するものが見つからず、大変です。働く気持ちは十分あるのですが。
5	私達の父母の世代に比べると、子育てに対しての考え方もかわって、だいぶ過ごしやすい世の中になってきているとは思いますが、やっぱりまだまだ小さい子供がいると、外へ働きに出るというのは難しいですね。全体で再度取り組んで、地域での子育て、考えていきたいものです。
6	パート賃金が安い割に、責任ある仕事を任されている。何年働いても自給が上がらない為、不満がある。それ以外は、とても満足できる職場である!!
7	いじめ根絶と色々な所(学校)で言われていますが、いじめは社会・大人・子供すべての所であることを認めたくて、いじめにあった時どうするのか、具体的な例をあげた雑誌を小学生(中学生、高校生他)に配布することで、いじめは少なくなると思います。
8	子供を保育園に入れる時、とても苦労しました。役所の方と面接、根ほり葉ほり色々なことを聞かれ、後味が悪い思いをしました。今回実家の祖母が老人施設に入所することになって、これまたとても大変でした。子供は産むな、長生きするなと国から言われているような感じがします。特に仕事を持つ女性にとって、とても生活しづらいです。育児や介護、家事その他家庭のことがすべて母、妻に関わってきて、その上、子育てがうまくいかなければ母親のせい、家事ができなければ悪妻のように見られ、家庭の中で女性が安らぐことができる場所はありません。自分の時間すら持てないのが現状です。今以上に男性が家事・育児・介護に積極的に参加する社会を望みます。特に、夫の親と同居の場合、親世代の意識を変える必要もあると思います。
9	私は結婚後も仕事を続け、第1子妊娠と同時に退職しました。第3子が3歳になるのをきっかけに再び働き始めました。約10年のブランクはあってもすぐ仕事のカンをとりもどして働けるし、短時間なので子供の学校行事などは今まで通り参加するようにしています。私は資格もあるし恵まれているほうなのかもしれませんが、子供を保育園に預けてまで働いている人ほど子供の躰も行き届いていなく、親も学校行事などにあまり出てきません。子供が小さいうちは母親はきちんと子供の面倒を見てゆったり暖かい家庭をつくれるようにして、子供が幼稚園や学校に入るようになってからまた働けるような、そんな環境ができればと思います。雇用、子育て支援、親世代の理解(親世代は専業主婦を遊んでいと言う)いろんなことがうまくいかないと・・・すべて行政の制度のせいにしないで、子供が小さいうちはちょっと心がければ主人の給料だけでも暮らせるのに・・・
10	正職員との給料等の格差が激しい!!
11	働き方について自由に選択できにくい環境にあると思いますが、どのように働きたいのか、自分自身で定まっていなかったり、家族間で話し合われていない事が、不本意な働き方に流される原因のひとつと感じます。一般的にこんなものだろうと言う様な、生き方・働き方をしている結果、不本意な結果あるいは問題が起きたときに流されて「自分は不幸だ」と言うような、生き方、働き方になっていると思います。
12	私は不妊治療に専念したいために、仕事を辞めました。理想は、仕事と治療を両立させたいのが本音ですが、今の職場環境では、とても言いづらいのが現状です。大企業は、そういった治療をしている人に有利な制度を作っていると聞きますが、一般の中小企業には、まだまだ遠い先のことかと思うと、不公平感をぬぐえません。パートには産休がない会社もあるそうですが、子供を産むたびに仕事を辞めたりしないといけない?など考え出したら、キリがありません。早く女性が安心して働ける環境を整えて欲しいです。
13	今年4月末まで役所の臨時職員をしていましたが、ストレスで体調を崩し退職しました。非正規雇用の問題は早急に解決してほしいと思います。(賃金・待遇・休暇取得等)
14	結婚により同居。新しい家族が増え、自分自身も出産し、子供も増え、笑って、泣いて、おこって、けんかして毎日が色々あって大変過ぎます。でも子供達も高校生になり、後わずかで親元を離れて行くときが来るので、やはり自分にとっての一番は配偶者だと深く考えるようになりました。子育てが終わったらお金もないですが、夫と二人で一緒に出かける楽しみを見つけないと考えております。仕事と家事の両立も大変だし身体もへとへとでいつも夫にこぼしまくりですが、それも生きがいの一つと考え頑張っていきたいと思っています。

NO	ご意見
15	子育て、介護を実際に行っている人への支援は手厚くなっていますが、そういう従業員を雇っている企業に対しても、何かしらの優遇措置がないと、そういう人を雇用する中小企業自体が減ってくると思います。有給取得率が高い企業に税金等の優遇を行う等の措置があると、企業努力も変わってくると思います。今、中小企業では有休を取得するのはなかなか思い通りにいきません。
16	ケータイ、パソコン、ゲーム・・・身の回りには高価な物が次から次とデザインを変え、機能アップして現れる。周囲が持てば自分の家でも、と欲しくなり、常に物を買うために高収入を求めて、残業、休日出勤しなくては生活出来ないと思い込んでいるが、会社に拘束される時間を男性も女性も少なくし、家庭や地域活動その他ボランティアなど、ごく普通に参加できるようになったら良いと思う。自分は大切な子育ての時期、仕事が忙しく家でも常に時間に追われ何でも一人でしなければ、と思い込んで精神的に追い詰められていた気がする。子どもとゆっくり夕飯の支度をする位ゆとりが欲しかった。
17	子育て支援が充実していない。(国、自治体、会社)
18	もう少し余裕を持って家庭生活、仕事を行いたい。平日は、全く自分の時間が持てず疲れる。
19	現在は専業主婦ですが、50歳まで正社員として働いていました。夫の理解により今は主婦という職業を楽しんでいます。働いて得る賃金は半減したが、生活の楽しさは2倍になった気分です。
20	問22で(2)と回答しましたが、従来の古い考え方ではなく働く夫を支えていき、妻も社会活動(ボランティアや地域活動)などを通して社会と密にかかわっていくことが大切だと思います。パートナーとはとてもいい夫婦関係です。もし病氣や怪我で経済的に(夫が)働けなくなればいつでも経済的に支えられるように準備しておくのも妻の役目と考えます。ですから、どちらも大切な役目だと思います。家族が生き生きと自由を過ごせるような”心こそ大切”だと思います。
21	少子時代と言うが、親にも頼れず、自分達で衣・食・住をしていかなければならない20代をもっと金銭面で会社が助けてもらいたい。我家の理想の「子供が3歳までは母親に専念すべき」を叶えるために考えてもらえたらいい。子供を安心して産めるように20代こそ助けるべきではないでしょうか？
22	まだまだ女性が仕事を続けるには、厳しい状況。ましてや、子育て(出産・妊娠を経て)しながらでは難しい。働けていても、どちらか(仕事と子育て)が、おろそかになる様な…
23	物価があがり、普通の暮らしをすることが大変になりました。残業すればお金はいいけれど、子供と接する時間が短くなり、残業しなければ収入が減る。良いことなしです。子供と未満児で保育園等に預けたくないけれど、そうしなければならない世の中だと思います。
24	働ける環境をもっと充実させてほしい一年末年始、現在小学校の児童クラブは閉室になってしまうので大変困る。親の都合で(勤務時間)子供に負担をかけてしまっていることが、とても気になる。在宅での介護はできないとの判断で、義父が施設入所しているが、何だか後ろめたい気持ちで一杯だ。洗濯物を取りに行くのも何となく行きにくい。
25	自分さえ良ければと思っている人が多いような気がします。
26	昔じみた、古い考え方の会社がまだまだあると思う。有給が使えなかったり、当たり前に取りうるはずの育休なのに、頭を下げて、育休をもらわなければいけないのはおかしい話だと思う。
27	仕事優先の生活で意欲が低下している。長期間の休暇(育休とか)や退職して家事をしたい。自宅での持ち帰り仕事(ふろしき残業)も多く、休日に家で仕事をしていることもある。仕事とプライベートの切り替えがうまく出来ず、リフレッシュできない。
28	育児は仕事よりエネルギー(心身共に)を使うものだと思います。1人の人間と24時間365日向き合うのはすごい事です。仕事している方がまだ気が抜ける時がある気がします。そういった事柄を妊娠中に前もって知る機会を、妊婦に与えてあげられれば、と思いました。
29	子供優先の生活をしています。今のパート先は土・日・祝と休めて、子育てはしやすいので、子供が小さいうちは、このままのペースで生活して行くつもりです。
30	子供が3歳になるまでは母親は家にいないとかわいそうというのは古くさいです。子供が小さいのに保育園に預けて働くのは親の身勝手と言われますが、1歳で預けようが3歳、4歳で預けようが子供の変わらない愛情を注いでいけば関係ないと思う。私は、働く女性に賛成です。もっと女性が働きやすい環境にしなければいけないと思う。マタニティ休暇や産前産後休暇を充実させるべき。男性も育児休暇をとるようにすべき。だと思う。その他、家族手当が低すぎる。もう少し増えないと生活できない。
31	男性も女性も社会で仕事をするという事は、仕事に責任を持つということで必ず、家庭に全く影響がないかと言えば、不可能な事だと思います。家庭で協力する事、社会の仕組みを変えていく事が必要だと思います。今のままでは、男性、女性、どちらかが育児の負担を抱えなければならない。特に保育園から小学校入学時には、子供を見ってくれる時間の違いに、仕事を続けることが出来ないという場面に遭遇する事もあると思う。